

## 差別や偏見をなくし、誰もが自分らしく生きていくために

～人権学習での学びをとおして～

6月下旬から7月にかけて、各学年各学級で人権学習を行いました。

1年生は「他者との適切なコミュニケーションの取り方について」、2、3年生は「在日外国人の方々が抱える問題への理解や多文化共生社会のあり方について」、学習をしました。

特に2、3年生は、講師の方をお招きして、言葉が通じないことの辛さや自分らしく生きることができない辛さ、さまざまな出会いや出来事を通して感じたり努力したりされたご経験などを、聞かせていただきました。



まずは、身近な人権問題やいじめ問題について関心をもち、何が問題なのか気づくことが第一歩です。その上で、自分ができることを考えて、問題を解決するために実行することが必要でしょう。

私も今回の人権学習の機会に、これまでよく理解できていなかったことを正しく知ることができました。知らないことや無関心でいることで、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまうことがあることを忘れてはなりません。

人権学習での学びを活かして、差別や偏見をなくすために行動し、誰もが自分らしく生きていける社会(学校)をつくっていきましょう。

自分が朝鮮人であることを隠して、否定していたというチョンさんの話を聞いて、自分の大切なアイデンティティを自分自身ですら認められなくて、友達にも何か秘密にしながら仮面をかぶりながら付き合うというのは、とても寂しいことだなと思った。

また、高3で自分が朝鮮人であることをクラスで告白したときに、「みんな自分を「チョンさん」と呼んでくれて、かつ今までどおりに接してくれたからホッとしたが、同時に今までと変わらなさすぎて拍子抜けした。もっと自分のことを話したかったから、遠慮せず色々聞いてほしかった。」ということを知り、僕は今まで「国とか関係なく変わらず接することが大切」としか考えられていなかったけれど、そこからもう一度とびこえて「知ろうとする」のが大切なのだ気付いた。「差別をしない」だけじゃなくて、「違いを積極的にさらけ出して互いに気をつかわずに話して、互いを知り、認める」という、そこまでが多文化共生社会をめざしていく上で大切なのだ。

そして、その「違い」に「国のちがい」も「好きなことのちがい」などと同価で含まれるから、国の制度とかもどんどん改善されてすべての人が気持ちよく自分らしく生きられる日本社会になっていけばいいなと思った。

(3年生徒のふりかえりより)

## 2年生合唱コンクール(6月30日)



金賞を受賞した11組の発表の様子

「さすが2年生、一つの目標に向けてみんなががんばろうとしている姿、そして歌声が美しかったですね。」外部審査員の先生からそのような講評をいただきました。

学級での練習は一週間程度でしたが、それぞれの学級でしか響かすことができない見事な合唱を発表しました。

一人ひとりの勇気をたえ、共に歌った仲間の存在に感謝しましょう。



## SOSの出し方教室(7月8日)



1年生の生徒が、自分を大切にするため、ストレスへの対処等について特別授業を受けました。

生徒たちは、「ストレスをため込まず、誰かに相談しよう。そして、友だちが困っているときは、話を聞いてあげたいと思った。」等と感想を述べていました。

## 生徒会の取り組み(7月11日、12日)



生徒会の企画で、昼休みにフリースペースで、希望参加型のレクリエーションが行われました。短い時間でしたが、学年を超えた交流ができ、たくさんの笑顔がみられました。

また12日には、生徒会の提案で、ノーチャイムデーの取り組みも行いました。戸惑いもあれば、早めに意識して動く姿も見られました。

## 「私の思い2022」守山大会(7月9日)



本校からは3人が出場し、立派に発表しました。そして、本校3年生徒が、見事優秀賞を受賞しました。

また、本校の生徒会総務執行部の人たちは、しっかりと進行役を務めました。

「幸せ」とは (3年生徒の発表内容)  
(略)自分自身の感じる幸せを大切にし、互いの幸せを認め合うことで、人生はもっと豊かになると思います。「幸せに正解なんてない」それは言い換えると「幸せは自由自在」ということではないでしょうか。どんなにささいなことでも、それを自分の一つの喜びと考えることで私たちは毎日幸せを感じることができるのです。私は自分自身が正しい、そして楽しいと思えるような生き方をしていきたいです。そして、もし、この先、「あなたは今幸せですか。」と聞かれたら、はっきり「はい」と答えたいです。自分の幸せを築きながら、個性あふれる人たちとふれあい、豊かな人生を過ごしていきたいです。